

NIC Autotec, Inc.



第 48 期

定時株主総会 参考資料

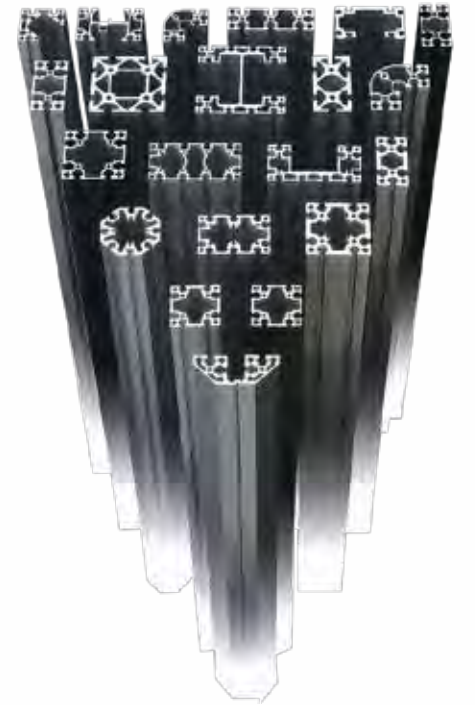
2019 General meeting of shareholders

エヌアイシ・オートテック株式会社

代表取締役会長 CEO 西川 浩司

2019年6月22日

1	連結経営指標等の推移	3
2	当社経営指標等の推移	4
3	業績推移 — 売上高・経常利益・(親会社株主に帰属する)当期純利益 —	5
4	業績推移 — 純資産/総資産・1株当たり純資産額・1株当たり当期純利益 —	6
5	セグメント別売上高の状況	7
6	連結財務諸表	8
7	財政状態の分析	9
8	経営成績の分析	10
9	会社概要	11
10	沿 革	12
11	3つの事業部門	13
12	国内事業拠点	14
13	倍増計画	15
	倍増計画 (~)	16
	倍増計画 ()	17
14	新たな取り組み	18
	NEW LINEUP (ロボット架台)	19
	NEW LINEUP (ロボット架台)	20



回次		第44期	第45期	第46期	第47期	第48期
決算年月		2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高	(千円)		6,176,962	8,088,753	9,260,778	8,715,190
経常利益	(千円)		565,737	833,708	1,032,716	746,710
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)		363,630	551,582	695,663	492,371
包括利益	(千円)		284,980	619,504	725,520	428,516
純資産額	(千円)		3,663,026	4,157,147	4,631,834	4,831,497
総資産額	(千円)		5,690,837	7,214,958	8,386,222	8,203,116
1株当たり純資産額	(円)		672.26	762.95	850.09	886.73
1株当たり当期純利益	(円)		66.73	101.23	127.67	90.36
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	(円)					
自己資本比率	(%)		64.4	57.6	55.2	58.9
自己資本利益率	(%)		10.2	14.1	15.8	10.4
株価収益率	(倍)		10.3	18.9	12.8	8.9
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)		240,758	278,714	556,092	612,256
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)		141,747	203,015	693,210	231,933
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)		108,282	25,079	371,830	304,511
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)		252,781	308,801	545,329	617,831
従業員数〔外、平均臨時雇用者数〕	(名)	[]	180〔30〕	190〔46〕	223〔47〕	251〔36〕

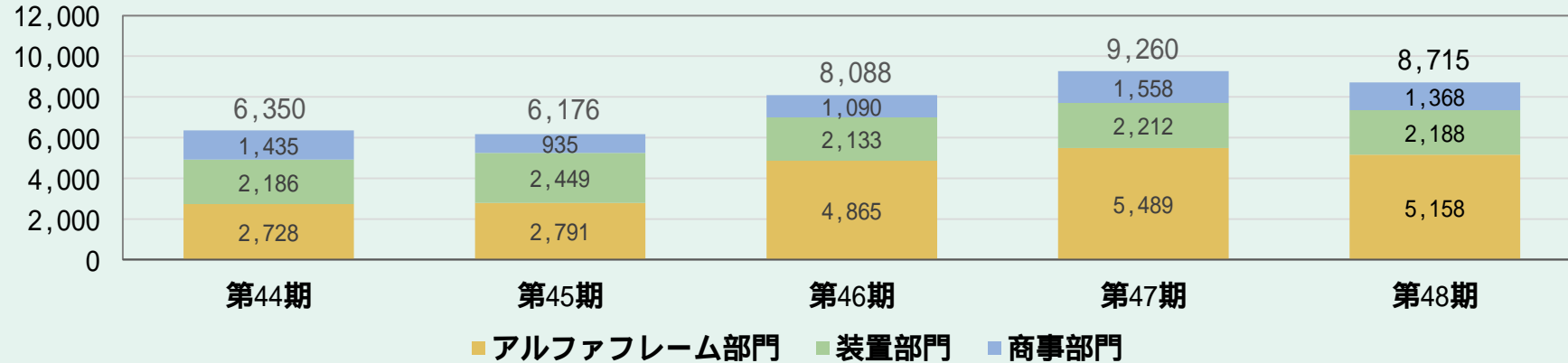
- (注) 1. 第45期より連結財務諸表を作成しているため、それ以前については記載していません。
 2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
 3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載していません。
 4. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。

回次		第44期	第45期	第46期	第47期	第48期
決算年月		2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高	(千円)	6,350,253	6,194,894	8,081,448	9,259,861	8,683,344
経常利益	(千円)	455,693	605,741	880,864	1,088,010	812,257
当期純利益	(千円)	296,406	363,879	598,595	685,821	468,594
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)					
資本金	(千円)	156,100	156,100	156,100	156,100	156,100
発行済株式総数	(株)	5,500,000	5,500,000	5,500,000	5,500,000	5,500,000
純資産額	(千円)	3,487,529	3,666,953	4,194,507	4,653,576	4,828,272
総資産額	(千円)	5,431,162	5,691,867	7,248,550	8,392,840	8,183,886
1株当たり純資産額	(円)	640.05	672.98	769.81	854.08	886.14
1株当たり配当額(内、1株あたり中間配当額)	(円)	20 ()	23 ()	30 ()	39 (16)	39 (19)
1株当たり当期純利益	(円)	54.39	66.78	109.85	125.87	86.00
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	(円)					
自己資本比率	(%)	64.2	64.4	57.9	55.4	59.0
自己資本利益率	(%)	8.8	10.2	15.2	15.5	9.9
株価収益率	(倍)	11.3	10.2	17.4	13.0	9.3
配当性向	(%)	36.8	34.4	27.3	31.0	45.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	172,486				
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	262,148				
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	76,333				
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	262,243				
従業員数(外、平均臨時雇用者数)	(名)	161 [20]	175 [30]	183 [46]	214 [47]	242 [36]

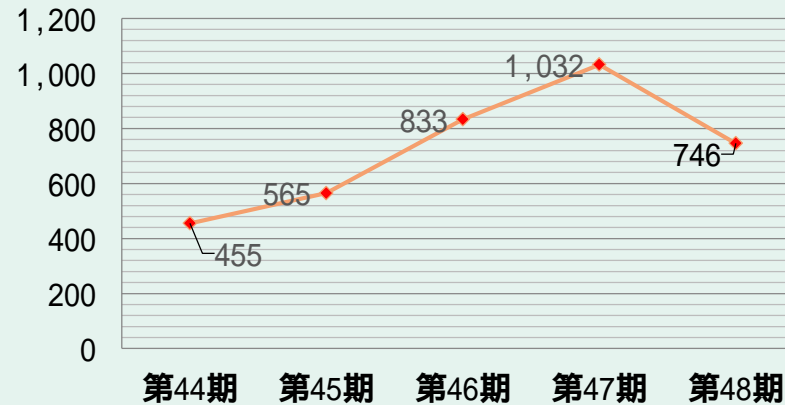
- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
 2. 持分法を適用した場合の投資利益につきましては、関連会社が存在しないため記載しておりません。
 3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 4. 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
 5. 第45期より連結財務諸表を作成しているため、第45期以降の営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー及び現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。

売上高

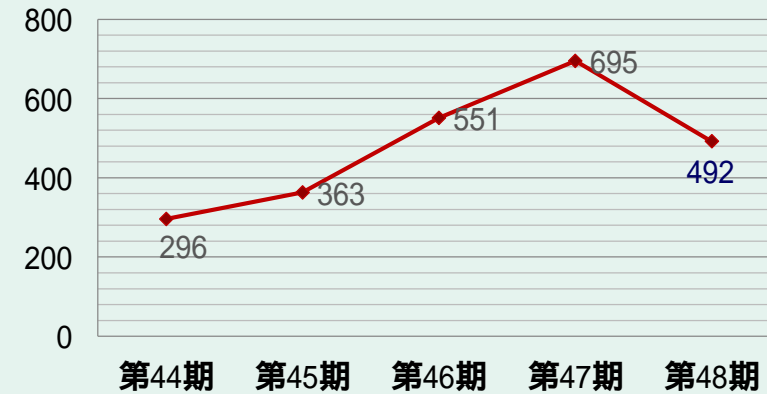
単位：百万円



経常利益

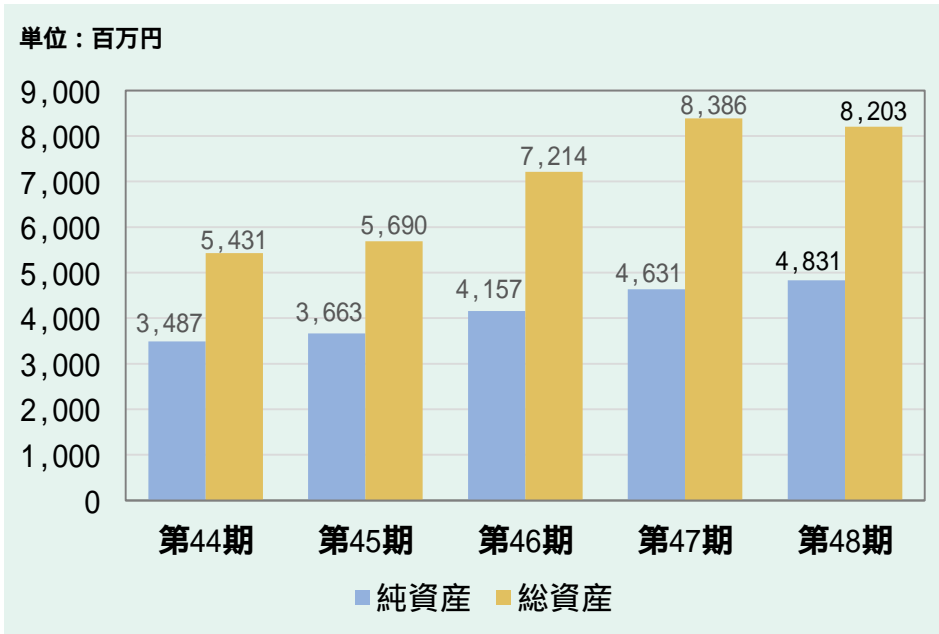


当期純利益 (親会社株主に帰属する当期純利益)



(注) 第44期までは単体、第45期より連結決算となっております。

純資産額/総資産額 (注)

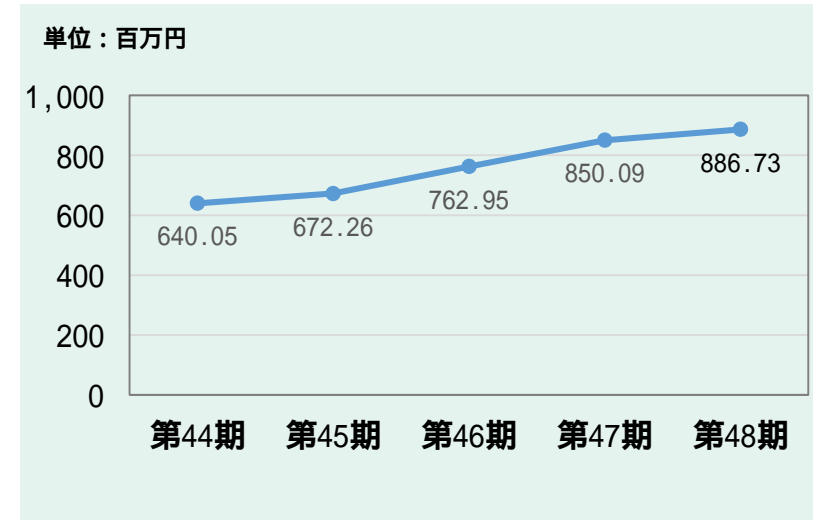


財政状態の分析

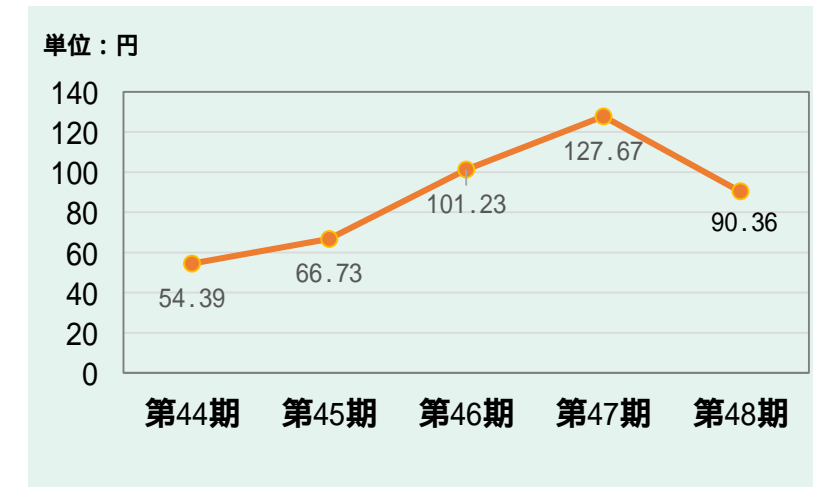
当連結会計年度末の総資産は、前年度末と比べ183百万円減少し、8,203百万円となり、負債合計は、前年度末と比べ382百万円減少し、3,371百万円となりました。正味運転資本(流動資産から流動負債を控除した金額)は2,831百万円であり、流動比率は212.2%であります。なお、当連結会計年度末の純資産合計は、前年度末と比べ199百万円増加し、4,831百万円となりました。自己資本比率は58.9%となっております。

(注) 第44期までは単体、第45期より連結決算となっております。

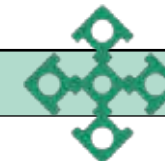
1株当たり純資産額 (注)



1株当たり当期純利益 (注)

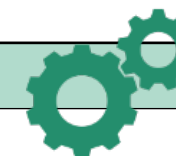


アルファフレーム部門



アルファフレーム部門におきましては、設計サポートサービス「カクチャ™」及び組立作業の省力化を可能とする「マーキングシステム™」を活用し、アルミニウム合金製構造材の付加価値を高めることで、競合他社と差別化を図る提案営業を引き続き展開いたしました。ロボットを含む一般のFA設備に対して継続的な投資がなされていることから、一般顧客向けの販売が好調に推移し、特に「カクチャ™」及び「マーキングシステム™」を活用した案件は分野を問わず活用が出来ることから市場が広がっており、売上高は継続的に伸長いたしました。一方、前連結会計年度、好調であったFPD製造設備関連企業の設備投資は、一時的な調整が生じている状況により、これら企業からの案件減少が影響し、全体の売上高としては前年度を下回る状況となりました。この結果、当部門の売上高は5,158百万円(前期比94.0%)となりました。

装置部門



装置部門におきましては、引き続き当社グループの技術力を活かした質の高いFA装置の提案活動を推進いたしました。自動車部品製造企業向け設備として、洗浄装置及び検査装置を中心に継続的な受注確保に加え、部品の組立ラインの受注も確保し、FA装置関連の売上高が大幅に伸長いたしました。一方、FPD業界向けクリーンブースの受注は、アルファフレーム部門同様に好調であった前連結会計年度に対し当連結会計年度では同業界の設備投資に一時的な調整が生じている状況となりました。この結果、当部門の売上高は2,188百万円(前期比98.9%)となりました。

商事部門



商事部門におきましては、工業用砥石、油脂類等の消耗品関係及び工具関係等の受注を、前連結会計年度と同水準で確保いたしました。機械設備関係については、旺盛な需要が続く機械メーカーの納期の長期化等によって、売上計上時期が来期へずれ込むという影響、及び先々の計画はあるものの目先の計画の見合わせ等もあり、全体の売上高は好調であった前連結会計年度を下回る状況となりました。この結果、当部門の売上高は1,368百万円(前期比87.8%)となりました。



連結貸借対照表

(2019年3月31日現在)

科目	金額(千円)
資産の部	
流動資産	5,355,137
固定資産	2,847,978
有形固定資産	2,456,025
無形固定資産	53,138
投資その他の資産	338,814
資産合計	8,203,116
負債の部	
流動負債	2,523,728
固定負債	847,890
負債合計	3,371,619
純資産の部	
株主資本	4,757,703
資本金	156,100
資本剰余金	145,608
利益剰余金	4,490,730
自己株式	34,735
その他の包括利益累計額	73,534
その他有価証券評価差額金	55,574
為替換算調整勘定	17,959
非支配株主持分	259
純資産合計	4,831,497
負債及び純資産合計	8,203,116

連結損益計算書

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

科目	金額(千円)
売上高	8,715,190
売上原価	6,727,835
売上総利益	1,987,354
販売費及び一般管理費	1,249,116
営業利益	738,238
営業外収益	18,951
営業外費用	10,478
経常利益	746,710
特別利益	47,978
特別損失	24,533
税金等調整前当期純利益	770,155
法人税等	277,936
当期純利益	492,218
非支配株主に帰属する 当期純利益	153
親会社株主に帰属する 当期純利益	492,371

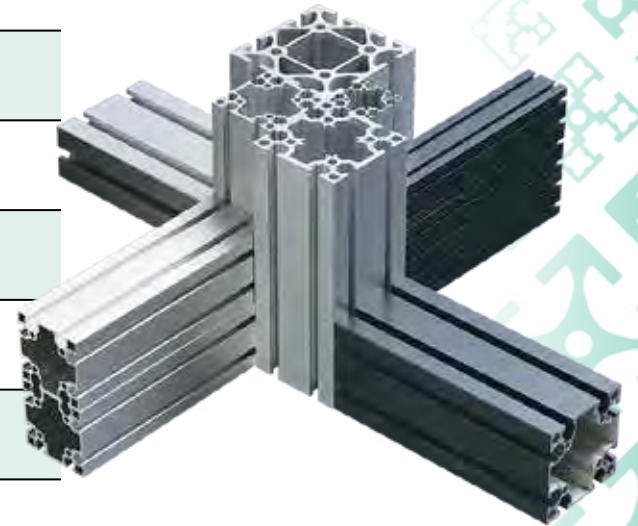
<p>流 動 資 産</p>	<p>当連結会計年度末における流動資産の残高は、前年度末と比べ151百万円減少し、5,355百万円となりました。これは主に、現金及び預金が72百万円、受取手形及び売掛金が120百万円、それぞれ増加した一方で、仕掛品が391百万円減少したことなどによります。</p>
<p>固 定 資 産</p>	<p>当連結会計年度末における固定資産の残高は、前年度末と比べ31百万円減少し、2,847百万円となりました。これは主に、土地が324百万円、建設仮勘定が153百万円、それぞれ増加した一方で、投資有価証券が84百万円、保険積立金が347百万円、それぞれ減少したことなどによります。</p>
<p>流 動 負 債</p>	<p>当連結会計年度末における流動負債の残高は、前年度末と比べ305百万円減少し、2,523百万円となりました。これは主に、未払金が133百万円増加した一方で、支払手形及び買掛金が476百万円、未払法人税等が79百万円、それぞれ減少したことなどによります。</p>
<p>固 定 負 債</p>	<p>当連結会計年度末における固定負債の残高は、前年度末と比べ76百万円減少し、847百万円となりました。これは主に、長期借入金が76百万円減少したことなどによります。</p>
<p>純 資 産</p>	<p>当連結会計年度末における純資産は、前年度末と比べ199百万円増加し、4,831百万円となりました。これは主に、配当金の支払い228百万円があったものの、親会社株主に帰属する当期純利益の計上492百万円があったことにより、利益剰余金が263百万円増加したことや、その他有価証券評価差額金の減少65百万円があったことなどによります。</p>

<p style="text-align: center;">売 上 高</p>	<p>アルファフレーム部門においては、様々な業界にてロボットを含む一般のFA設備に対して継続的な投資がなされていることから、一般顧客向けの販売が好調に推移し、特に「カクチャ™」及び「マーキングシステム™」を活用した案件は分野を問わず活用が出来ることから市場が広がっており、売上高は継続的に伸ばいたしました。一方、前連結会計年度、好調であったFPD製造設備関連企業の設備投資は、一時的な調整が生じている状況により、これら企業からの案件減少が影響し、部門全体の売上高としては前年度を下回る状況となりました。</p> <p>装置部門においては、自動車部品製造企業向け設備として、洗浄装置及び検査装置を中心に継続的な受注確保に加え、部品の組立ラインの受注も確保し、FA装置関連の売上高が大幅に伸ばいたしました。一方、FPD業界向けクリーンブースの受注は、アルファフレーム部門同様に好調であった前連結会計年度に対し当連結会計年度では同業界の設備投資に一時的な調整が生じている状況となりました。</p> <p>商事部門におきましては、工業用砥石、油脂類等の消耗品関係及び工具関係等の受注を、前連結会計年度と同水準で確保いたしました。機械設備関係については、旺盛な需要が続く機械メーカーの納期の長期化等によって、売上計上時期が来期へずれ込むという影響、及び先々の計画はあるものの目先の計画の見合わせ等もあり、部門全体の売上高は好調であった前連結会計年度を下回る状況となりました。</p> <p>これらの結果、売上高は8,715百万円(前期比94.1%)、となりました。</p>
<p style="text-align: center;">売 上 総 利 益</p>	<p>当連結会計年度は、受注減となったものの、「倍増計画」に向けた生産設備の拡充と技術者の増員・増強を進めたことから、売上総利益は1,987百万円(前期比87.9%)となりました。</p>
<p style="text-align: center;">販売費及び一般管理費</p>	<p>販売費及び一般管理費につきましても、将来に向けた継続的かつ効果的な人的投資及び販促・広告活動を推進した結果、1,249百万円(前期比101.4%)と微増いたしました。</p>
<p style="text-align: center;">営 業 利 益 親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益</p>	<p>当連結会計年度は、売上高・売上総利益が減少となったものの、販売費および一般管理については微増となったことから、営業利益が738百万円(前期比71.7%)、経常利益が746百万円(前期比72.3%)、親会社株主に帰属する当期純利益が492百万円(前期比70.8%)となりました。</p>

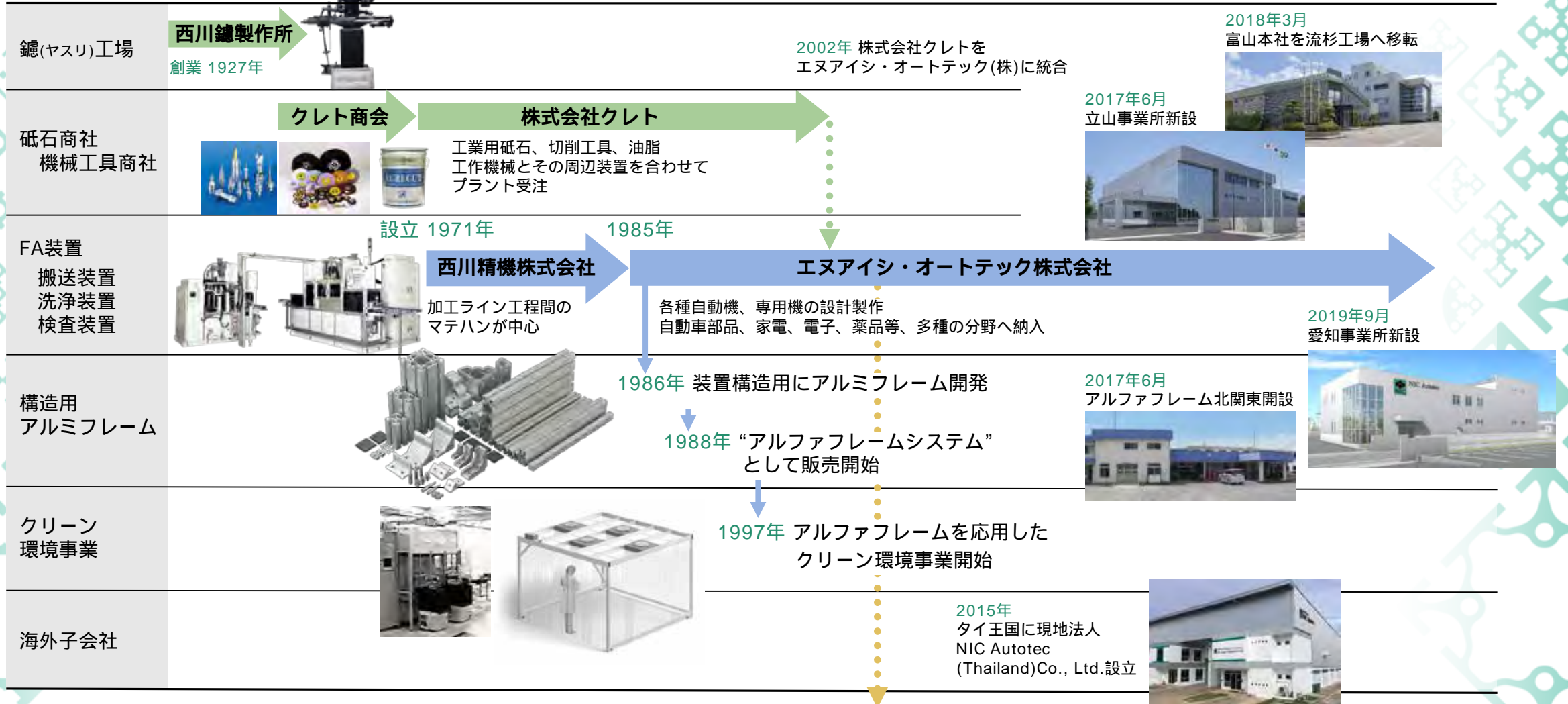


エヌアイシ・オートテック株式会社

創 業	1927年4月（昭和2年）
設 立	1971年5月17日（昭和46年）
代 表 者	代表取締役会長CEO 西川 浩司
本 社 所 在 地	富山県富山市流杉255番地
東 京 本 社	東京都江東区有明三丁目7番26号 有明フロンティアビルB棟11階
資 本 金	156,100千円（2019年3月31日現在）
従 業 員 数	連結251名 / 単体242名（2019年3月31日現在）
平 均 年 齢	単体38.3歳（2019年3月31日現在）

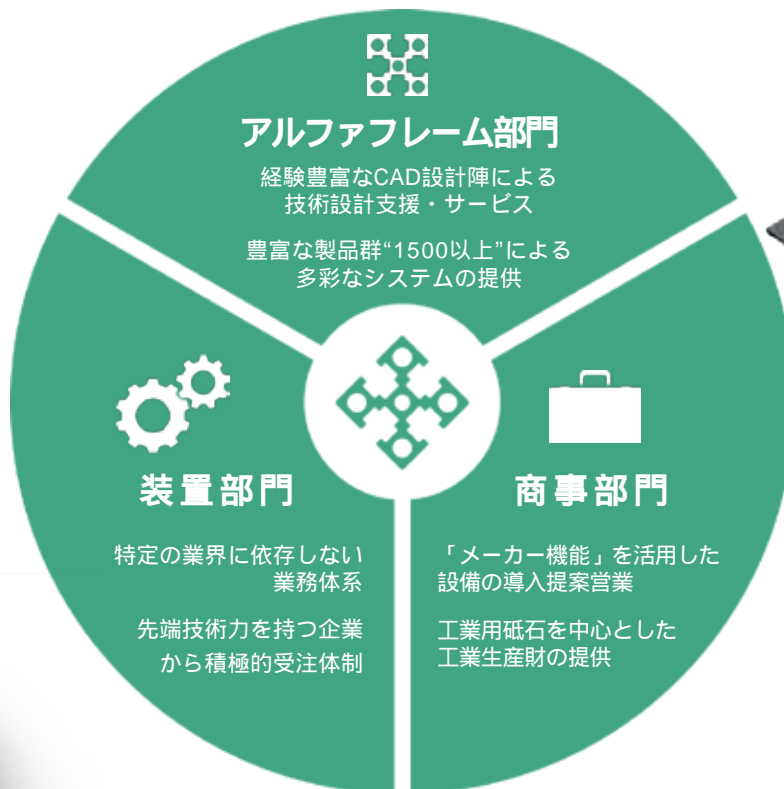


1927 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2015 2016 2017 2018 2019 2020 (年)



2006年アルファフレーム、装置、商事の3事業を核として、
JASDAQ(現:東京証券取引所)に上場

アルミ製構造部材から高度な自動化装置 さらにはクリーンルームの 製造・販売までの一貫体制



アルファフレーム + 装置 + 商事

高付加価値技術



富山本社/流杉工場

富山県富山市流杉255



立山工場/開発センター

富山県中新川郡
立山町塚越398-176



立山事業所

富山県中新川郡
立山町前沢2178-1



アルファフレーム九州

福岡県大牟田市
四箇新町1-2



アルファフレーム北関東

埼玉県児玉郡
神川町元阿保309



東京本社 (登記上東京支店)

東京都江東区有明3-7-26
有明フロンティアビルB棟11階



愛知事業所

愛知県名古屋市
緑区鳴海町母呂後185



アルファフレーム関西

大阪府東大阪市
本庄西2-4-29



2016年度から2020年度までの5カ年を期間とする中長期経営計画として、その最終連結会計年度における売上高・事業の規模を倍増する計画。

<p>第Ⅰ弾 2016年8月 海外子会社への増資</p>	<p>今後、自動化の波が高まることが予測されるASEAN地域に対し、NIC Autotec (Thailand) Co., Ltd. をハブとして、事業展開を図る。</p>
<p>第Ⅱ弾 2017年7月 立山事業所 新設</p>	<p>今後も益々グローバルに事業を展開するお客様のニーズにお応えするため、開発のスピードアップと製造能力の大幅な増強として、立山事業所を新設。FA装置(FA: Factory Automation/「自動化・省力化装置」をいう。)等の設計・製作を主体とした装置事業の重要な拠点。2017年7月中旬より稼働開始。</p>
<p>第Ⅲ弾 2017年7月 北関東出荷センター 開設</p>	<p>益々ニーズが高まるアルファフレームシステムをお客様のお手元へいち早くお届けできるよう出荷センター(名称:アルファフレーム北関東)を開設。本出荷センターは、関東を中心とした東日本のお客様へのサービス向上及び海外のお客様からのニーズにも迅速にお応えできる体制構築の一環。2017年7月初旬より稼働開始。</p>
<p>第Ⅳ弾 2018年3月 富山本社 移転</p>	<p>管理部門と生産部門の更なる連携強化による業務効率化を図るべく、2018年3月に流杉工場へ移転。</p>
<p>第Ⅴ弾 2019年9月 愛知事業所 新設</p>	<p>愛知県清須市内に新たな事業所を建設中(2019年9月下旬、稼働開始予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FA装置等の設計・製作強化 ・ アルファフレームシステムの出荷量拡大

□ 海外子会社への増資 将来を見据え、ASEAN地域への展開を図る

今後、自動化の波が高まることが予測されるASEAN地域に対し、NIC Autotec(Thailand)Co.,Ltd.をハブとして、事業展開を図る。



□ 立山事業所・ アルファフレーム北関東 □ 順調に稼働中

立山事業所 (写真左)
2017年6月竣工、7月より稼働開始

アルファフレーム北関東 (写真右)
2017年6月開設、7月より稼働開始



□ 富山本社、 流杉工場へ移転で、連携強化

富山本社/流杉工場
2018年3月 富山本社を流杉工場へ移転





愛知事業所新設 FA装置製作及びアルファフレームシステムの販売強化

東海地区では、アルファフレームシステム及びFA装置等のニーズが高いことより、当該事業所では、FA装置等の設計・製作及びアルファフレームシステムの出荷業務を担う重要な拠点として2019年9月下旬にスタートいたします。
新工場稼働と同時に現在の愛知事業所(愛知県名古屋市)の機能を全て新工場へ移管いたします。



愛知事業所 完成予想図

- | | |
|----------------------------|---|
| (1) 所在地：愛知県清須市清洲田中町167番地 他 | (6) 総投資予定額：約9億円
(土地、建物及び建物付属設備、機械設備等) |
| (2) 土地総面積：3,465㎡(1,048坪) | (7) 資金計画：自己資金及び借入金等により充当 |
| (3) 新工場の名称：愛知事業所 | (8) 用途：FA装置等の設計・製作
及びアルファフレームシステムの出荷工場 |
| (4) 構造：鉄骨造/地上2階 | |
| (5) 延床面積：1,871㎡(566坪) | |

人型ロボットを活用したシステムインテグレーション

生産工場の自動化は、これまで多くの方策が実施されてきましたが、今後はその延長線上での改善では大きな効果を見込むことができないところまできております。

そこで、仕組みのイノベーションとしてIoTの動きが出ており、人と自動化装置の間の柵を取り払った生産管理システムが注目され始めており、具体的には、人共存型の双腕ロボットの活用が高まっていくことが見込まれております。

人とロボットと一緒に働く近未来的な生産現場（次世代工場）の環境づくりとして、制御プログラムの構築やロボット作業環境として必要な周辺機器・治具、及びこれらの目的に沿った新しいFA装置や『アルファフレームシステム』を活用したユニット化等の開発に注力してまいります。



作業指示書をもとに、ナット及び
ナットホルダーの整列作業を行う
双腕ロボット

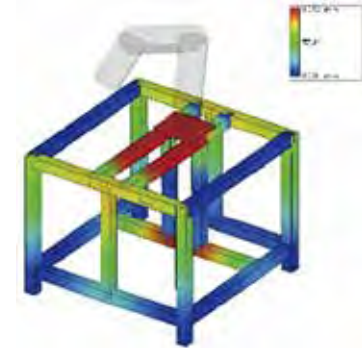


性能と利便性を両立した装置メーカーの『小型ロボット専用アルミ架台』

従来の産業用ロボット架台の課題を克服した「アルミ製ロボット架台」を規格化し、新たな商品としてラインアップいたしました。安全性はもちろんのこと、スチール同等の強度と剛性を確保した最適設計で、高速ロボットの性能を確実に支えます。

用途に合わせた規格品「アルファ・キット」

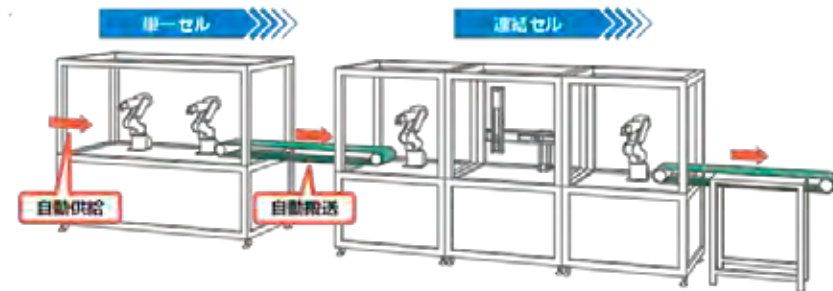
ALFA Kit — ロボットシリーズ —
AK-R-Series



従来の構造解析に加え、ロボット稼働状態での振動測定(加速度、振動数)を行い、スチール同等の強度と剛性を確保した最適設計。



標準カバーと一体化し、単独セルからセル同士のライン連結などミニロボットによる自動化生産ラインの工程レイアウトが自在に行えます。



協働ロボット7kg専用架台
AK-R-FK07



幅	1,000mm
奥行	990mm
高さ	830mm
重量	156kg

垂直多関節ロボット
7kg以下用架台
AK-R-FC07



幅	990mm
奥行	990mm
高さ	1,800mm
重量	136kg

産業用ロボット架台 FCシリーズ



AK-R-FC07-1000
垂直多関節ロボット
7Kg可搬以下用



AK-R-FCS03
水平多関節ロボット
3Kg可搬以下用

カスタム品 セミオーダー フルオーダー



セミオーダー
幅広架台



フルオーダー
天吊り用架台



フルオーダー
連結架台

協働ロボット架台 FKシリーズ



AK-R-FK07
協働ロボット
7Kg可搬以下用架台



AK-R-FKS05
協働ロボット
5Kg可搬以下用
スタンド型架台



AK-R-FKT10
協働ロボット
10Kg可搬
以下用架台

Thank You !

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。

本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想並びに記載された内容は、本資料作成日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本資料に対するお問合せは、以下へお願い申し上げます。

<エヌアイシ・オートテック株式会社 管理部管理グループ>

TEL:076-425-0738 FAX:076-422-2712

Mail: ir@nic-inc.co.jp URL: <http://www.nic-inc.co.jp/>



エヌアイシ・オートテック株式会社

富山本社/流杉工場	〒939-8032 富山県富山市流杉255	TEL:076-425-0738
東京本社	〒135-0063 東京都江東区有明3-7-26 有明フロンティアビルB棟11F	TEL:03-5530-8060

ご注意 著作権 © NIC AUTOTEC, INC .

WARNING: All Rights Reserved . Unauthorized duplication is a violation of applicable laws.

本資料を権利者の許諾なく無断複製、改変、頒布、翻訳などを使用することは、著作権上、禁じられています。

産業財産権 NIC AUTOTEC, INC . ALFA CLEAN BOOTH & SYSTEM, ALFA FRAME SYSTEMの主要な構成部品は特許、実用新案、意匠権など産業財産権により保護されております。

